

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470301090		
法人名	医療法人ほうしょう会		
事業所名	グループホームうの花		
所在地	三重県鈴鹿市石薬師町1096		
自己評価作成日	平成 31 年 2 月 1 日	評価結果市町提出日	平成31年4月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2018_022_kihon=true&JigvoNoCd=2470301090-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 31 年 2 月 20 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

歌人佐々木信綱生誕の地で、唱歌「夏は来ぬ」に歌われている「うの花の垣根」に囲まれた明るい広々とした平屋建ての施設です。庭には緑があふれ、実のなる木が植えてあり、四季の移り変わりが楽しみでもあります。運営母体である「医療法人ほうしょう会 朝川クリニック」が常にご入居者様の健康管理をおこなっています。理事長である主治医には24時間相談できる体制を取っており、緊急対応も万全です。ご縁をいただいたご入居者様は、ご希望により、終末まで対応させていただいています。ご入居者様、職員は和気あいあいと、とても明るく、法人理念である「人生の先輩として尊敬の念をもち、安堵安心を捧げ、真心をもって接する」を職員は日々実践し支援させていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

のどかな住宅地にある事業所で、地域住民との関わりが多く、地域の活動や行事に積極的に参加している。管理者、職員は事業所理念の「笑顔で作る やさしさの輪」を掲げ、笑顔を絶やさないように支援をしている。家族、自治会、地域住民、ボランティア、関係機関団体等の理解と協力により、家庭的な雰囲気の中で、安心して生活出来る事業所を目指し利用者の支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で法人理念に沿ったグループホーム理念を作った。事務所には法人理念とともに掲げている。毎朝朝礼時に二つの理念を唱和し意識付けをおこない、それらの理念に沿ったサービスを実践している。	事業所理念の「笑顔で作る 優しさの輪」と3つの約束ごとを朝礼時に唱和し、職員全員が理念を共有しながら日々利用者の支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており役員の方が定期的に広報誌等を届けてくださる。その際には情報交換をおこなう。運営推進会議でも地域の情報をいただく。グランドゴルフ大会、ふれあいフェスティバルにも参加し、子供神輿やハロウィンでは地域の子供たちが来訪、世代間交流ができています。	自治会に加入し、地域の行事や活動・イベントに利用者と参加している。子供神輿やハロウィンで利用者が子供達にお菓子を渡す事を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域の方々との交流の場で認知症の方についての対応や日々実践しているケアについて情報発信している。本年も地域の高校からインターンシップを受入れ認知症についての理解を深めていただけた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に実施している会議ではグループホームでの日々の取り組みやサービスの内容を説明し意見交換をおこない、いただいた意見はサービスの向上に活かしている。	利用者家族・自治会長・老人会長・民生委員・主治医・介護相談員・地域包括支援センター職員が出席し、2か月に1回開催している。事業所の活動状況報告、出席者からの意見や助言があり、意見や提案を事業所の運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター、介護相談員に出席していただいている。毎月の広域連合の会議で当事業所の取組等を伝達していただいている。又、運営上で必要なこと等は直接担当者に面談し良好な関係を築いている。	運営推進会議開催時、包括支援センター職員・介護相談員の意見や提案を聞いている。また、提出書類の更新時に市広域連合介護保険課職員と事業所運営等で話し合いをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体的拘束等の適正化のための指針」「身体拘束マニュアル」を作成し、現任、新任研修で学び、「身体拘束をしないケア」を実践している。手動にしていた玄関ドアは自動ドアに切り替えた。	玄関は自動ドアで施錠はしておらず、ドアの開閉時のセンサー音で出入りの確認をしている。身体拘束のDVDを使用して研修を実施し、職員はレポートを提出している。言葉による拘束はその場で注意するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	業務改善会議や施設内研修で「スピーチロック」についても学ぶ機会をもうける等、虐待が見過ごされることがないように日々注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している入居者がいらっしゃる。今後ご利用者の状態悪化により成年後見制度の活用が必要になった場合は適切に対処できるように資料をそろえ、関係機関との連携も整備している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居までに施設の見学をしていただき、話し合う時間を持ち、契約時には項目の一つひとつを説明させていただいている。入居に関し必要な物品や利用料も明確にし、十分理解・納得した上で契約をさせていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は日々生活しておられる中で会話や行動から利用者の状態を読み、家族からも意見をいただけるように関わりいただいた意見や要望は運営に反映させている。「家族交流会」を開催し気軽に意見や要望を伺う場を作っている。	面会時に家族から意見や要望を聞くようにしたり、年に2回開催する家族交流会や運営推進会議で意見や要望を聞いている。毎月送付する請求書に「うの花」だよりと担当職員が利用者の状況を記入したメモを同封している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リクエストシートに要望や提案を記入することで迅速な対応ができています。他、管理者は、その都度、適時、職員の意見を聞き、毎週おこなっている運営会議に提案し反映させている。	管理者は話し易い環境づくりを心掛け、職員がいつでも意見や提案・要望を聞くように努力している。意見や要望を事業所の運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は人事考課を年2回実施し、職員個々の努力や実績を反映させ「やる気」に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修では外部から講師を招いて勉強会をおこなっている。人事考課シートの活用により職員それぞれのステップアップに評価をおこない力量を把握している。各種研修会の案内を事業所に掲示し職員が積極的に参加するように促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業所連絡協議会の会員になり、ネットワークづくりや勉強会に参加し、他の事業所との交流を通じてサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談を受けた際に家族や担当ケアマネから情報を得て本人と面談している。その際には、表情・声・行動に気を付けて、本人の困りごとや意向を聞き取る面談を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談や見学時には、ご家族様の困っていることや心配なことが話しやすい対応をおこない、思いを受け止め、安心感を持って何でも相談いただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談や見学時には、ご家族様の必要としている支援を把握し、色々なサービス種別があることを説明し一番適したサービスの選択ができるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者を人生の先輩として尊敬の念を忘れず、介護しているという意識を持たずに謙虚な気持ちで共に生活している。ご利用者も役割を持って生活されている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が施設に来所された時や毎月のお便りを通じて、利用者の身体状況、生活状況をお伝えし、家族と情報を共有することで、家族と共に利用者を支えあう関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙で連絡をされている方や、在宅時の友人や姉妹、親戚の方も面会に来られている。馴染みの美容室へご家族様と一緒に掛かけられる方、又、以前利用していたデイサービスへ友人に会いに行かれる方等、関係が継続できるよう支援をおこなっている。	娘と美容院へ行ったり、職員の送迎で歌会へ行く利用者がいる。また、老人会の人の面会等があったり、手紙を出したり年賀状を書く利用者がいる。家族が掛かりつけの歯科医に診察に連れて行ったりもしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格やその時の状況を把握し、職員が間でクッションになり、スムーズにコミュニケーションがとれるように配慮している。職員は皆様が楽しめる話題を提供したり、趣味活動の支援等をおこなう等、孤立することなく共に関わられるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても相談を受けた時には、適切な助言や支援をおこなえるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様との普段の会話や関わりの中で一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。「その人らしく」の思いを常に考えて支援できるように、職員は「その思い」を気づく努力をおこなっている。ケアカンファレンスにて情報を共有している。	日々の会話で利用者の意向や希望を聞くようにしたり、入浴時や就寝前の会話で把握するようにしている。把握が困難な利用者は仕草や表情、態度で思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用者の生活履歴調査にご協力をいただいている。これまでの生活等を把握するように心がけ、入居後は日々の会話の中で表情や言葉から観察し、把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で利用者の心身の状態の変化に対応できるように職員間で小さな気付きや発見等の情報交換をおこなっている。そして、少しでも自立した生活をしていただけるような支援をおこなっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成担当者は関係者から要望・課題の提案を受け、ケアプラン原案を作成し、カンファレンスをおこないケアの方針を話し合っている。毎月モニタリングを実施し、大きな変化がないかぎり、3か月に1度計画の評価をおこない、6か月に1度計画の更新を行っている。	担当職員や家族、関係者の意見を聞いて毎月モニタリングを行っており、3か月に1回見直しを実施している。6か月ごとに介護計画を作成している。	家族面会時、家族交流会や運営推進会議で家族との関わりを一層深め、家族の意見が介護計画作成や事業所の運営に活かされることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者それぞれに個別記録表を用意して日々の記録を行っている。特に必要な連絡事項はホーム日誌の特記事項や伝達ノートに記入し、申し送り等で他の職員と情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族からは健康状態を維持してほしいとの要望が多いことから主治医の指示の下、生活リハビリや運動に力を入れて取り組んでいる。拘縮の緩和に訪問マッサージを利用したり、外出支援により精神の安定を図ったりと、柔軟に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	佐々木信綱記念館でおこなっている「歌会」に参加し趣味の短歌を楽しんでいただいている。又、図書館で本を借りて好きな読書が続けたり、老人会の方が冊子を届けて下さるのを楽しみに待っておられたり等、一人ひとりに合った支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、当法人の理事長である医師が主治医として往診し、健康管理を行っている。歯科受診や他の病院受診の際には、ご家族様に同行をお願いしつつ職員も支援し、適切な医療を受けられるように配慮している。	2週間に1回、利用者全員が協力医(理事長)の訪問診療を受診したり、24時間対応で利用者の健康管理をしている。他科の病院受診については家族の理解と協力で職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は職員としては不在であるため、医療面は当法人の理事長である主治医に直接相談し、指示のもと適切な受診をうけられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要な場合には、法人の理事長である主治医から詳しい情報を提供し安心して治療が受けられる体制にある。施設内での情報は介護サマリーを提供し情報交換をおこなっている。又、認知症状の悪化も踏まえて早期に退院できるように連携をおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談の時点で当施設の終末期に向けた取り組みを示した書類を提示して説明している。早い段階から話し合いをおこない、その時期が来たときは関係者と連携しご家族様と話し合い、その方らしい終末期を迎えられるように適時確認をおこない、状況に合った支援をおこなっている。	入居時に重度化した場合や終末期の対応について説明をしている。重度化した場合はその状況に応じて医師と家族が話し合い、終末期に向けた支援を行うようにしており、昨年2名の看取りをした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時事故対応マニュアルに基づき勉強会をおこなっている。今後も定期的に応急手当や初期対応の訓練をおこない、全ての職員の知識・技術力を高めていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設防火管理者の立ち合いのもと、年2回火災・地震を想定した訓練を実施している。運営推進会議にて訓練実施の様子を報告、会議の中で質疑応答、アドバイス等をいただいた。	施設防火管理者の指示のもと、年2回、火災・地震を想定した避難訓練を実施している。また、地域の防災訓練に職員が参加したり、水・食料等の備蓄をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室ドアのガラスにはすりガラス状に細工をおこなった。外から中の様子が見えないよう配慮している。日々の言葉かけや対応は、理念に基づき敬いの気持ちを持っておこなうように心掛けている。年間研修項目にも取り上げて啓発に取り組んでいる。	居室の入退室・トイレ誘導時・入浴時等の声掛けや言葉遣いに、利用者のプライバシーを損なわないように支援をしている。呼称はさん付けで呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりが思いを素直に表せるように話しやすい関係作りに努めている。ゆっくり話を聴く機会を設けたり、日頃の些細な会話も聞き逃さないように努め、本人の思いで行動、自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのその日の体調には気を配りつつ、どのように過ごしたいのか発言や態度を良く観察して、その人らしい暮らしができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	要望により、衣服、化粧品など好みのものを買いに職員と出かけている。自分で選択が困難な方には職員と一緒に季節に合った清潔なものを選んで着ていただく支援をおこなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今年度から、セントラルキッチンで管理された食事提供を導入し一人ひとりにあわせた食事形態で対応している。メニューも豊富で季節に合った旬のものを提供でき好評で、癒し系の音楽を流し、ゆっくりゆったりと食していただいている。	契約業者(セントラルキッチン)で調理した食事を利用者に合わせた状態で提供している。豊富なメニューで季節感のある食事を利用者に提供している。癒しの音楽を流し食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	著しく食事が少ない利用者には、主治医と連携し高カロリー補食を準備し、適時、支援している。又、好みの飲み物を用意する等、水分も自然に必要な量が摂れるように、一人ひとりの状態により支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと就寝前の義歯のポリドント洗浄を実施している。自己管理ができない方は職員がその都度口腔内のブラッシング、義歯洗浄を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録から排泄パターンの把握に努め、個々に合わせてトイレ誘導を実施している。便座での座位確保が困難なため昼夜とも紙おむつで対応の方がお一人いらっしゃるが、以外の方々はトイレでの適切な排泄支援をおこなっている。	排泄記録表で利用者一人ひとりに合わせたトイレ誘導をしている。声掛けや誘導により排泄の自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や歩行等、できるだけ身体を動かしていただいている。必要な方には水分量のチェックをおこない、不足しがちな時には好みの飲み物を用意する等の支援している。どうしても便秘になりがちな方には主治医に報告、便秘薬の処方により適時排泄支援をおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調やその方に合ったタイミングを見ながら支援をおこなっている。お湯は一人づつ入れ替え、柔軟な対応で安全に気持ちよく入浴していただいている。	週2回、脱衣所にエアコンが設置してある浴室で、一人ずつ湯を入れ替え入浴剤を使用して入浴をしている。季節感のある菖蒲湯やゆず湯を楽しんでている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や希望に合わせてゆったりくつろげる居室環境を整え、いつでも安心して自由にくつろげる居場所を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の重要性を職員一人ひとりが認識し、確実な服薬支援をおこなっている。服薬管理と与薬の点検項目を作りチェックしている。又、主治医の指示で薬が変更された時には身体状況を観察し、必要に応じて主治医に報告し指示をいただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	園芸の取り組みを通して野菜を収穫したり、習字の日を設けたり、編み物、手芸等の活動もおこない適時参加していただいている。買い物の好きな方には一緒に出掛け気分転換の支援をおこない、お誕生日にはお好みの食べ物を用意する等、一人ひとりの支援をおこなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブ等、希望を伺いながら支援している。法人よりグループホームの専用車を用意していただいたので、時間に関係なく支援の幅が広がった。行ってみたい所がある方をお誘いしているが、遠慮があり申し訳ないと思っておられるので、遠慮がいらぬようなフラットな支援を心掛けていきたい。	梅・桜・紅葉等、季節の花見や買い物にドライブで出掛けている。天気の良い日は、事業所周辺の散歩や前の畑の野菜の収穫をする利用者がいたり、家族と外出をする利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方がいらないため、お小遣いの預かり制度は廃止になったが、法人の立替えで必要なものはいつでも購入できる。外出時には自分で使えるお金持たせいただきお買い物を楽しみを味わっていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を書く方、友人に手紙を書く方がいらないので支援している。住所不在で戻ってきたことがあり、ガッカリされていたこともある。遠方のご家族様から電話をいただき取り次いだり、故郷の親戚に電話をされたりと柔軟に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	陽当たりの良いリビング、天窓と自然採光に恵まれた造りで明るい雰囲気のある生活空間がある。リビングでは懐かしい歌や癒しの音楽をかけ、ゆったりくつろげる場所を作っている。必要がないと感じる時には自由に居室でくつろぐがれ自分の時間を持ってもらえる。	広くて陽当たりの良いリビング兼食堂は、利用者が寛げる場所となっており、広い廊下は天窓からの採光でとても明るい空間である。壁面に大きい毛糸アートや季節感のある利用者手作り作品が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには食堂用テーブルと椅子、喫茶コーナーにはソファを配置し、自由に移動できるように配慮している。気の合う人と過ごせるように席の配置にも配慮している。又、居室では自由に気ままに過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望に応じて使い慣れた家具等を持参していただいている。趣味の写真やご家族様の写真を飾ったり、居心地の良い空間づくりをおこなっている。	電動ベット・クローゼット付の大きな押入れが設置されていたり、テレビ・テーブル・椅子等使い慣れた家具等が置かれている。居室は掃き出し窓で日当たりが良く、とても明るくて居心地が良い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の引き戸には見やすいネームプレートトイレにもわかりやすい案内板、居室のタンスの引き出しには取り出しやすいようにシールを貼ったりと「できること」や「わかること」を増やし安全に過ごしていただく工夫をおこなっている。		